

令和5年度 まちづくりを語る会 概要

(●意見・質問等 ○町側の回答等)

7月3日 谷地中部地区

【意見・質問等】

- 町長任期中に人口が増えるのか減るのか、具体的な施策が見えない。
- 県立河北病院はどうなるのか。先生がいないということだが先端技術を使えるような設備の導入やほかの病院から名医を連れてくるなどしてほかの病院との差別化を図るべきではないか。
- 道の駅については再生事業を行っているが、今の場所が本当にいいのかという検討をしてもらいたい。ICが近くにあるのだから東根と合同で運営するのもいいのではないか。
- 働く場所がなければ人口は増えない。資料には企業支援とか、企業立地、中小企業に対する支援など載っているが具体的にどうやって行くのかが見えない。
- 子育て支援関係についてはいろいろ施策を打っているのですが、これはおおむね大丈夫なんじゃないかなと思うが、問題は、子育てに関わる保育園とか幼稚園の先生への処遇という意味で給料を100%支給しているのか。
- 谷地高校についてはこのままいくと他校の分校扱いになってしまいかねないと危惧している。ほかの高校では履修できないような学科を設けるといった取り組みはどうかと思う。町からもふるさと納税を財源として高校のカリキュラムを作る支援をしてはどうか。
- 子供からお年寄りまで活気ある町になってほしいと思う。今回はほかの人の意見が聞けて良かった。
- 今の子供たちが、どういうことを望んでいるのかということを理解し、次世代の子供たちをどう育てていけばいいのか考えることが必要だと思う。例えば畑中は町の中でも一番少子高齢化の進んだ地域だが、次世代の子供たちに地域の課題がどういったものなのかを理解してもらうためにメダカの学校という事業を行っている。地元の農家の方から協力してもらって無農薬の田んぼでメダカを育てることで田園の豊かさをどう保つかを考えるきっかけにしている。子育てというのは地域の子供をどう教育するかということであるから、地域の文化と触れ合いながら行っていくことが大事だと思う。
- ほかの子供のいる親にも声掛けしてみたが、みんな子供を見ないといけないということで会に参加できないとのことであった。子育てしている人に来てもらいたいのなら託児所を設けるなどの配慮があってもいいのではないか。

- べにのすけが描かれているバスを町内でよく見ていてかわいいと思っていたので、子供たちと一緒に乗れるような企画を立ててもらえると楽しいと思う。例えば普段近くの公園しか使っていない親子を違う公園に運んでもらえるように中央公園とひなの公園を行き来するようなバスを走らせるといった企画。小さい子供がいるので自転車では移動できないような親子が移動できるようにという思いと町営バスをせっかくかわいいデザインだから子供たちに利用させたいという思いがある。
- 夏休み中に親がいて学童に預けていない家庭などでも一時的に子供の勉強を見てもらえるような場所があると子育てしている親としては助かると思う。町営バスで子供を迎えに来てもらって、ボランティアの人が短い時間でも勉強を見てもらえるような仕組みなど。
- 子育て中の親は孤立しやすい。孤立しないようなコミュニティづくりが必要だと思う。
- 不登校になってしまった子供の親としてははじめのない学校を目指してほしい。
- 10年前にUターンしてきて、実家で、息子、嫁、孫と暮らしている。孫が不登校になったことがあり、狭い空間で何十人もの子供たちがいる環境にいななければいけないというところから行き渋りが始まったように感じる。そこで感じたのは放課後の学童クラブが地域ごとにあって、公民館みたいなどころでやってくれたらいいかなということ。
- 高校生ぐらいの大きい子供を持った家庭だと通学が大変になるため、路線バスに支援して本数を増やすなどしてもらえるとありがたいと思う。昔のように10分に1回くらいバスが来るくらいの頻度を復活させてほしい。
- 中央公園はやっぱり雨の日が使いづらくて周辺の自治体の施設に行ってしまう。あそこを雨天に遊べるような場所にしてくれたらありがたい。あと町外からも人が来てくれるようにするには、そこでちょっとバーベキュー施設なんかつくってくれるといろんな人が集まってきて遊んでくれると思う。
- 不登校になった場合に入れるゆうゆう教室に入るために学校などでも審査があるのか1か月ほど待たされたことがあった。子供たちはどうしたいかっていうことを子供を持つ親の気持ちになって考えてもらったらうれしいと思う。
- 東京では放課後は必ずしも学童にいるというわけではなく、子供が教室にランドセルを置かせてもらって、下校まで教室を使わせてもらおうといったこともできた。そのように教育の仕方を杓子定規に決めないで様々な選択肢を持ってほしい。
- 3世代同居で、子育てを分担してきた祖父の立場としての意見を言わせてもらおう。子育てをするうえで大人としても成長させてもらったように感じているので子育ては人育てであるというようにも感じている。3世代同居のメリットもあるように感じているが、住宅環境整備のための補助金は独立していないと使えないといわれた。3世代同居への理解も進めてほしい。

- 河北町独自のいろんな支援にいろいろ助けられてるなど心から感謝している。一方で、子育てをして山形市で5年間、天童市で10年間、河北町に来て8年目だが、河北町が正直1番子育てしづらい。子供のための買い物をできる店がなくてほかの市町村に買い物に行かなければならないのが不便。医療機関も子供にあうところが見つけられずにほかの市の医者に通っている。
- 交通に関しては4年前にも町長と語る会に出席した際に子供の送り迎えが負担であると話をしたが、「のちのちいい思い出になるので今頑張ってください」と出席していた職員の方から言われて、何を言っているんだろうと正直思った。通勤通学の時間の便だけでも増やしていただきたいと思うのと、中心部だけがバス活性化されても結局、そこまで送り迎えをしなければいけないのは結局負担になる。
- 子どもの遊び場については東根や天童の施設にどうしても行くことが多かった。中央公園は正直余り魅力がない。ただ広いだけで、もうちょっと何か子供と一緒に遊べるような魅力的な遊具があればいいと感じる。

【町側の回答等】

【河北町の課題について】

- 人口については総合計画の中では1万6000人を目指すということとしている。

【河北病院について】

- 河北病院について1番のネックは、小児科と循環器系のお医者さんがいないということ。循環器系のお医者さんがいないと手術ができないということで総合病院としては大きな課題となっている。寒河江か河北かという議論にとどまってしまうのではなく、よりよい医療を受けられる環境をどう構築していくかということが重要であると感じている。

【道の駅について】

- 道の駅についてはべに花の里振興公社が指定管理を受ける形で施設をオープンできるように取り組んでいる。今後何十年とあの場所で道の駅をやっていくという考え方ではなく、必要最小限の投資をしながらフルオープンを目指していきたい。

【学童クラブへの支援について】

- 学童クラブへの支援については国の基準に従って、適切な給与が支払われるような形で行っている。

【谷地高校への支援について】

- ふるさと納税を財源として有効に使わせてもらっていて、医療費の無料化とか、子育て応援とか、学校無償化に取り組ませてもらっている。支出を余儀なくされるという消極的な負担ではなく、これは谷地高校への支援も含めて積極的に使うという投資ととらえている。
- 谷地高校は、定員に対して志願者の数が少なくこのままだとクラスが削減されてしまうかもしれないという状況にある。短期的には、高校生の活躍する姿を周知したり、どんな進学先があるのか就職先があるのかをPRしておくことが重要であると考えている。長期的には谷地高校を支援する会を新たに立ち上げて強力でバックアップしていくことが必要だと感じている。

【地域教育への取り組みについて】

- ご意見があった中でメダカの学校という取り組みというのは本物とのふれあいを提供できるいい取り組みだと感じた。学校の中だけでなく、地域の子供は地域で育てるという発想でコミュニティスクールを取り組みとして進めている。

【学童クラブについて】

- 学童クラブに関するご意見もいただいたが、河北町では子供の数は減っても学童に対する需要は増えてきている。この需要は令和7年がピークになってその後は減っていくと想定されている。いずれ少なくなることが目に見えている中で、学童の需要にどうやって答えていくのかは大きなテーマになっている。

【託児所の設置について】

- 子供を持つ保護者の方々からご意見をいただく場でもあり、ご意見いただいた通り多くの方から参加いただくためにも必要なものだと思う。託児所の設置については検討させてもらいたい。

【ゆうゆう教室について】

- 学校の教育を行う一番の基本となるものが学習指導要領とされているが、最近最も変わったところは子供が主体、大人は伴走者という認識になったことである。子供を中心にして学校教育を行っていかなければならないということ。ゆうゆう教室でも審査等はなく誰でも受け入れるという方針にしている。先生も二人になっているのでゆうゆう教室をぜひご活用いただきたい。

【町有施設の修繕について】

- 施設などのハード面に対する意見もたくさん伺ったが、町内にはもう古くなっている施設がたくさんある。50年前に作られた施設を50年前の施設に戻す修繕ではなくて、これから利用する人たちのニーズに合った施設の修繕を考えていかななくてはならない。

7月5日 谷地南部地区

【意見・質問等】

- 「地域食堂クレヨンピット」という団体が弁当配布をしている。もともとは貧困家庭の子どもを対象にチラシを配っているが、現状お年寄りの方が多い。コロナ前は1時間程度地域の方と交流しながら、楽しい時間を過ごしていた。

ここで、相対的貧困家庭（平均所得の半分以下である家庭の子ども）は町内にどれくらいいるのか？国からも計画を作れとは言われているはずだが、調査や現状把握はしているのか？

就学援助制度で数を把握するのもいいが、民生委員に言うのが嫌という方も。直接教育委員会にも申請できるようにしてほしい。国の定義である年収250万円以下などと定義するなら、役場には課税状況調査のデータもある。教育現場による就学援助制度だけでなく、多面的に考えて欲しい。

- 小学校のあり方について、町民になにかしら伝えられるのはいつか？
- 谷地高の応募減は残念。カヌーの特色は貴重。この際、県外からも生徒を呼んではどうか。町もアパートや生徒向け住居を準備するとか。
- 70周年記念事業、鯉のぼりも協賛したいが（新しいまつり事業の）15万では足りない。できればさらなる支援を求む。
- 空き家の調査依頼が区長宛に来る。調べて回答するが、報告を求めるのみであとはない。調べたならきちんと結果を教えて欲しい。
- 防災センターの要望、谷地南部地区区長会として3,000超の署名とともに3回に渡り陳情した。災害はいつ来るかわからない。「重く受け止める」と町長も明言していたが町でもなにか目に見える形で示せるものはないのか。地区民や区長の間でも「どうなった」という話になるが、同じことの繰り返しにしかっていない。
分譲地とするのは別にいいが、何かの形で動いて頂かないとまずい。将来のため、できることからきちんと示してほしい。
- コロナで祭りがストップしたが、継続して取り組んでいけているので、不満はない。
- 姉がシングルマザーだが、町の支援もあり（甥姪が）元気に育っている。町のおかげだと感謝している。

- 出産で10万・小中高入学で5万という祝い金があるのは良い。他市町と比較し、突出して「これが目玉」といえるような子育て策は？
- コロナ明けて嘸子屋台4台出せることに。毎年40万の補助金もいただいているが、各戸から1軒3万からの寄付をもらっている。物価高騰もあり、上乗せはいただけないか。
- 孫がいて賑やか。ひなのこども園に2人、ここ谷地南部小にも1人。学童のさくらクラブ含め楽しくやっているようだ。病後児保育にも世話になり、本当に助かりありがたい。ただ、子どもは突発的に具合が悪くなる事も多く、日曜日に高熱を発熱し、河北病院も寒河江市立病院もダメで、結局県立中央病院へ行ったこともあった。子どもをきちんと見られるようお願いしたい。
- 道の駅、なぜそこまであの場所にこだわるのか？県内2番目にできたのはわかるが、どんどんお金をかけて整備するのがわからない。いろんなことを発信していくなら、あそこでなくていい。
- どんがまつりについて、他市町のまつりはすでに開催発表されている。メディアへの発表はまだならないのか？

【町側の回答等】

【貧困家庭の把握について】

○教育委員会に、経済的な理由でお困りの家庭に学用品費等を支援する就学援助制度がある。あくまでこの制度の認定者数だが、70～80人程度である。

福祉、教育、子育て支援の部署がより強固に連携して対策を立てていく。

【小学校のあり方について】

○単純に「子どもが少ないから統合」ではない。先生も減る。学校・学級の経営視点が必要となる。20～30年先まで考えながら進めていく。

○山田区長自身も、あり方検討委員会に入ってもらっているが、27名の方が委員として参加いただいている。検討委員会には

①学校の適正規模・適正配置について

②将来の学校像等に対する町の基本的な方針について

の2点を諮問した。また、これまで地区の方でも話し合いを行った。今後、8月・10月・11月に検討委員会を開催した後、答申を予定している。また、教育委員会や総合教育会議で検討した後、議会に説明する予定である。アンケートの結果を町ホームページや広報で公表しているので参照いただきたい。

【谷地高のあり方について】

○全県的に高校の学級数が減っている中で、谷地高は2学級確保できていたが、今年度は36名のみ受験者で、意図せず1学級にならざるを得なかった。来年、いかに確保するか、町としてどう汗をかいていくか、注力していく。1学級になってからでは遅いという意識で、町と高校で汗をかきながら方針を探っていきたい

○谷地高、ぜひ守らなければならない。具体的には、谷地高・河北中の両校長、教育長、町長による4者会をしている。中学生や受験生に届くためには、在校生の活躍する姿を発信していくことが大事。高校生活だけでなく、その先に素晴らしい進学先があることも、知られていない。長期戦なところもあるので、様々な意見を聞きながら進める。

【町制70周年記念事業について】

○地域あげて盛り上げる70周年事業を考えていきたい。

【空き家の調査について】

○空き家対策室も設置したこともあり、きちんと調査分析のうえ、結果報告もしていく。

○今年、空き家対策にはギアチェンジして取りかかっていく。地域からも協力をお願いする。ご指摘、心して対応していきたい。

【防災センター設置の署名について】

○署名頂いたこと、きちんと受け止めている。実被害を受けた災害への備えも考えている。南部地区に限らず町全体の事を俯瞰してみながら考えている。同じような条件下の地区もある中、備蓄は倉庫一括管理でなくリスク分散すべきという考えもある。既存の施設活用も含め、改めて本腰を入れて検討委員会で検討していく。

【河北町での目玉となる子育て策について】

○それぞれに特色あるが、トータルで考えて安心して子育てできること。医療は強み。

○給食費無償化もあるし、奨学金に返済不要の給付型がある。これは町外から問合せが来るほどだ。

【囃子屋台や当番地区への支援要望について】

○完全復活が嬉しい。奴も去年からやってもらったのがありがたかった。各地域での意見を大事にしなが、実行委員会で検討する。今後のまつりのあり方にも弾みがつくようにしていきたい。

【町内における小児科診療体制要望について】

○河北病院に救急医・小児科医が常駐していないため不便をおかけしているかと思う。特に循環器系の医師がいないのが痛い、今年から総合診療医の深瀬・斉藤両医師が着任し、この2人体制となったのは最近におけるプラスと思える。

【道の駅の方向性について】

○道の駅、各地で賑わっている。そういう他市町の道の駅にただ追いつくべきとは思わない。今のままずっととは思っていないので、20～30年後を見据えて考えていきたい。あの場所は、空港やインターを出て西へ向かう際には玄関口となる場所。少し離れるが、ひなの湯、産直、最上川がある立地で、まだまだ十分に使える余地がある。やたらにお金をつぎ込むのではなく、気持ちよく使っていただくようこだわっている。見切りをつけた方がいいという意見もあるが、きちんと活用する方向で、フルオープンに向けて準備していく。

【どんがまつり開催の広報について】

○ポスターも間もなく今週中には刷り上がる。実行委員会でも早々にプレス発表を急がせたい。

7月7日 谷地西部地区

【意見・質問等】

- 子供にとって沢山の人の関わっていくことが大切だと思う一方で西部小をなくしてほしくないという考えもある。教員の配置などの問題も色々あると思うので適切に検討してほしい。
- ワクチン接種会場で観た町のアーカイブ映像がとても懐かしく感じられてよかった。HPでの掲載や役場での貸し出しは行っているのか？
- 今日は子供が学校でもらってきたチラシを見て来た。子育て世代の意見を聞くにあたり、二次元コードで簡単に参加申し込みができたのはとても良いと思う。ただ、日時設定と事前周知が惜しいと感じる。母親の意見を聞きたいのなら休日の日中のほうが良いし、どちらにしても事前に日程を決めておいて周知をしっかりとってもらわないと現役世代は来れない。せっかく町長や課局長と話せる機会なのにもったいない。
- 当初予算にある児童動物園リノベーションとは何か？
- 現在西部小PTAの役員をしているが、入学者の減少により自分の子供に同級生ができないのではないかと周りの保護者は心配している。ほかの小学校に入学させることを検討する保護者がいるくらい状況は深刻である。町として西部小の統廃合について何か検討していることはあるか？

- 家を建てる、土地を買うときの補助金は今のところないと聞いた。他市町にはあるので、河北町も人を減らさない努力だけではなく人を増やす努力もしてほしい。
- 県外に長らく住んでおり、河北町に帰ってきたら町が寂しく感じた。町の良いところ、特色を芸工大生などの若い人に探してもらい、アピールしてもらうのはどうか。
- 現在子供と孫がいるが、子供は県外に出て行って帰ってこない。特に娘を県内に残しておかなかったのが惜しいことをしたと思っている。町の政策をみていると特に子育てに力を入れているようだが、その前段階である結婚をする人が少なくなっているのも問題ではないか。結婚支援に力を入れてはどうか。
- 自分の息子は埼玉で仕事をしているが、「自分のやりたい仕事が河北町ではできない」とのことだった。魅力的な雇用を創出していくことが必要ではないか。
- 自分が子供のころは近所の人によく叱られたものだが、今はそうはいかない。叱った人が逆に叱られるくらいである。少子化の影響もあり、地域で子育てをするという意識が低下してきているのではないか。
- 町の施策をみていると、子育て支援など経済的な支援は行っているが、それだけでなく何かほかに子供の成長につながる核となるものが必要ではないかと感じる。もっと地域、町、学校が情報共有、連携していくべきではないか。
- 地域の老人クラブが解散した。理由を聞いてみると老人が仕事で忙しく集まっている暇がないとのことだった。老人が仕事で忙しくしなければならぬくらい日々の生活にゆとりがなく、皆自分のことで精一杯になっている印象を受ける。
- 同じ町にずっと住んでいるとその町の良さが見えてこない。河北町の良さを第三者に教えてもらうとよいのではないか。ダメなところを直していくことも大切だが、良いところを伸ばしてアピールしていくことも同様に大切だと考える。
- 自営業、特に農業をしている人にとって昨今の物価上昇はとても痛手である。ただでさえ農業は身体的負担が大きく、辞める人が増えてきている。農家の後継ぎ問題に対する施策も行ってほしい。
- 今日は子育てに関するテーマで話し合いをするはずだが、来ているのはほとんど子育てが終わっている人のようだ。我々は子育てを見守る地域の人としての意見ならば出せるが、もっと現役世代に意見を聞く場を設けてはどうか。
- 当初予算のポイントという資料を見させていただいた。限りある予算のなか、バランスよく、頑張っていてやっていると思う。ただ、バランスが良すぎるあまり河北町を今後どのようにしていきたいのかというビジョンが見えてこない。町全体で頑張っていくために、何か目玉的施策を掲げていくのはどうか。

【町側の回答等】

【小学校のあり方について】

○複式学級が良い・悪いではなく、子供の大切な6年間にどのような環境を作ってあげられるかを第一優先として考えている。小学校のあり方については町民参加型の「あり方検討委員会」を開催する予定であるのでその時にもぜひ意見をいただきたい。

○現在「あり方検討委員会」を設置して話し合いを行っている。現在検討委員会には

①学校の適正規模・適正配置について

②今後のあり方、将来像の方針

を諮問しているところである。昨年は計3回開催し、地区ごとの懇談会も開催した。

その結果は広報や町のHPに掲載しているので参照いただきたい。今後は8月、10

月、11月に開催を予定しており、8月は町民参加型での開催を予定している。

【町のアーカイブ映像について】

○企画財政課にて貸し出しをおこなっている。

【語る会の開催のしかたについて】

○参加しやすい会合、テーマ、呼びかけをこちらでも意識してきたつもりだが、至らなかった。いただいた意見を参考に検討していきたい。

【動物園リノベーション事業について】

○剥製館が老朽化しているので解体し、新しいビジターセンターを整備する。また、ベビーカーや車いす等に配慮したバリアフリーな動物園にしていく。ビジターセンターについては、天候に関係なく楽しんでいただけるよう、建物の中に小動物と触れ合えるコーナーを設置する予定である。役場の1階に模型があるので役場にきた際はぜひ見て行ってほしい。

また、河北町児童動物園はケガした動物の愛護施設という側面を持ち合わせている。リノベーション後は子供向けのワークショップを開催し、子供たちの動物愛護の心を育てていければと思っている。今後は動物園に関するクラウドファンディングを行っていく予定であるのでぜひ応援していただきたい。

【家の建築、土地購入の際の補助金について】

○家を建築する際の補助金制度がある。条件はあるが利用者には喜んでもらっている。補助金の存在や利用する際の条件を使う人にとってわかりやすいように発信していきたい。業者への周知や制度の充実に力を入れていく。

【生活のゆとりについて】

○かつて日本は「総中流社会」とも言われたものだが、今は変わってきている。「相対的貧困」の家庭が増えてきており、今や貧困が現実的なものになってきている。河北町で収入を得て、結婚し、子育てをするという人生のトータルサポートを町がしていかなければならないと考えている。

【外部から見た河北町の魅力について】

○役場には現在地域おこし協力隊が5人いる。紅花や農業などそれぞれが感じた河北町の魅力をPRしてもらっているところである。

○空港との行き来がしやすい、食べ物がおいしいとの声はよく聞く。他には、若い人から「河北町は北側には町、南側には田んぼが広がっており、その対比がきれいだ」と言われたこともある。町の外の人から見方には驚かされているところである。そのような外部の人からの意見も活かし、移住・関係人口の増加を図っていきたい。

【少子化・人口減少について】

○出生数は毎年10人近く減少しており、去年は67人であった。当面は出生数が100人を超える町になるように取り組んでいきたい。

○出生数と死亡数の兼ね合いで人口が自然減少していくのは仕方がない。町外に出ていく人がいることも仕方がない。経済的な支援だけではなく、出て行った人が帰ってくる町、若い人や女性に選んでもらえるような町になるような施策をしていきたい。

7月11日 北谷地地区

【意見・質問等】

●自分には2才になる子供がおり助成金や給付金など様々な子供にかかる費用を支援してもらって大変ありがたいと思っている。一方で、小学校の統合が今後どのような計画になっているのかが気になって参加した。子供が1学年100人もいない町で小学校が6つも要るのかという思いもある。同級生が3人しかいないから河北町では生活できないとほかの町に引っ越すという話も聞く。町としては、人口が増えないとお金も増えないしやりたいこともできないということもあると思うのでどういう風になっていこうとしているのかを聞きたい。

●学校のあり方の検討については小学校だけの議論なのか。

- 中学校も行くところを選べる時代となっており、若い人は子育て世代に充実したところに注目している。その中で河北町に若者を集めるとなれば何かに特化したものを作らなくてはならないと思っている。小中一貫といった目立ったことができればいいようにも思う。
- 子供を産む以前の問題として、結婚しない環境とか子供が欲しくても産めない環境にも着目してもらわないと人口が増える要素がないと思う。
- 女性が働ける環境づくりも大事だが、子供を産む前にも産んだ後も休まなくてははいけないという事情があり、無理に働いたり、給与が下がったり、産んだ後の職場復帰という課題が現実的にある。女性が働きやすい社会というよりも子供を産みやすい社会、子供を産みながらも働ける環境というのを目指したほうがいいのかと思う。
- 若い人たちの意見を聞いてみたくて今日は参加してみた。
- 子育てしやすい地域コミュニティとはというタイトルだが、地域で子育て支援の場としては若い人たちが非常に少ない。昔は青年会などといった地域の集まりがあってそこで若い人の交流が結構あってつながりが密になっていた。今ではそういった集まりがなくて、河北町がいくら住みよい町だとしても都市部のほうに出て行ってしまうのが現状なのかと思う。人口減少にもつながっているし小学校の維持もままならない。子育てに町がお金を出してはいるが根本的な対策をどう考えているのかを聞いてみたい。

【町側の回答等】

【子育て環境について】

- 3世代同居の多い地域ではあるものの、核家族化が進み共働きが当たり前の環境にある。子供をつきっきりで家庭でみられるという家庭はほぼ0だと思っている。子供を希望に沿った形で成長させたいし、そのための環境を整えたいというのが地域、町、親の願いだと思っている。かつては1年で子供が120人くらい生まれる時代もあったが、今では70人を切っている。せめて100人は生まれる町を取り戻したいと思っている。

【学校の在り方について】

- 今は西部小が複式で、北谷地、溝延、西里も含めて複式が目前になっているが、複式学級が良い・悪いという議論ではないと思っている。地域にとって学校は必要だという意見もあるが、子供の大切な6年間の学校生活にどのような環境を作ってあげられるか、今後の5年、10年を見たときにどういう小学校を考えていくかというのは最終的には町長、教育長の責任になるが、小学校のあり方については多くの人

に関心を持っていただいで多くの意見を出していただいたうえでしっかりと結論を出していきたい。

- 「小学校の在り方検討委員会」を令和4年5月に立ち上げた。構成メンバーは小中の校長先生、こども園や幼稚園の保護者の代表、学童の代表、地区の代表となっている。委員会は令和4年度に3回、令和5年度に1回開催している。また、6つの地区に出向いて懇談会を開いて小学校の在り方について話し合いをしているほか、令和4年7月にアンケートを実施した。こういった検討の内容については河北町のHPに概要版として掲載したり広報にも掲載している。

検討委員会には教育委員会として

①学校の適正規模・適正配置について

②今後のあり方、将来の学校像の基本的な方針

を諮問しているところである。今後は8月、10月、11月に開催を予定しており、8月は町民参加型での開催を予定している。町民の様々な意見を聞いたうえで今年の秋には結論を出してもらう予定でいる。

- 中学校は一つだけなのでここは変えないつもりだが、小学校の在り方によって中学校にも影響する可能性もある。小学校の配置についても様々な意見がある。

- ・今のまま存続するべき

- ・2～3校にする（一つでは少なくある程度地域に分散配置）

- ・1校にする（段階的に統合する可能性があるのなら初めから1校にする）

1校にする場合は小学校・中学校を一体的に考える義務教育校や小中一貫校など子供たちにより良い教育環境とする議論の展開もありうる。

- 本来、保育料の無償化や医療費無償化、学校給食無償化といった保護者の負担軽減策は自治体ごとの財政的な事情による格差が生まれないように国で責任を持った施策として取り組んでほしいと思う。自治体がそれぞれの特色を持った教育を提供することに集中できるようにして、自分の育った町がいいと思ったからこそ戻ってくるような流れを作り出せればと思う。

【子供を産める環境づくりについて】

- 仕事や経済的な事情で結婚したいのに踏み切れないとか子供が欲しいけど産めないといった人たちの後押しができるようにしなくてはならないと思う。理想と現実のギャップを埋めるために行政や企業も動いていかななくてはならないと思っている。

- 子供を産みやすい社会にするためには様々な視点があると思う。育児休業について1年までは7割程度の経済的な保障があるが、それより長期化すると保障が減ることや、企業側には経済的な保障以外に望むこと、1歳くらいになったら預けられるところの充実など様々な論点あると思うので意見があればメールなどでも結

構なので頂戴したい。
観光課)

(担当：商工

7月14日 西里地区

【意見・質問等】

- 3年前に家族で山形市から移住してきた。今回は子育てがテーマということで初めて参加させていただく。
- 引っ越してきたときにびっくりしたことの一つは0歳から預けられる保育所がないということ。そのせいで0歳と4歳の子供を別々の施設に預けなければならなくなった。仕事をしつつ別々の施設に送り迎えをするのは本当に大変だった。ぜひ0歳児から年長さんまで一緒に預けられる施設を増やしてほしい。
- ゴミ袋に地区名と名前を記入しなければならないことにも驚いた。とても手間がかかるしそもそもなぜ記入しなければならないのか分からない。記入するにしても、数字や記号にするなど簡易化してほしい。名もなき家事を減らしてほしい。
- 河北町は空き家が多いように感じる。特に西里小近くの空き家に関しては近くの子供が放課後近くを遊ぶので危ない。以前町の職員がテープを張ってくれたが雪や風などで風化してしまい意味がない。どうにかして対策を取ってほしい。
- 子供2人目以降保育料が半額だったのが、一人目が小学校にあがったことで全額負担になったことがとても痛い。ほかの市町村のように1人目の年齢にかかわらず2人目以降は半額にしてほしい。
- 昨年の「まちづくりを語る会」に参加し、町の取り組みを知れてよかったので今年も参加させていただいたところ。ただ、テーマが子育てに関するもので、子育て中の親を中心に募集していたようだったので、そうでない身としては少し参加しづらかった。自分は子育て中ではないので子育てとは別の観点から意見をさせていただく。
- 若い人や子育て中の親の声を聴きたいなら小学校という場所設定はよくないと思う。小学校や公民館にしてしまうと子育て中の親というより高齢の人が集まってしまう。動物園や各子育て支援センターなど子育ての現場に行ったほうが良いと思う。
- ペレットストーブや木材への補助を前々から要望していたが、実現してもらいうれしく思う。ゼロカーボンへの糸口を示してもらった。
- 西里地区には西里財産区がある。今までも活用方法を検討してきたが、財産区を利用して環境・自然を守る大切さを小学生、中学生に教えてほしい。
- 孫がEテレで流れているSDGsの歌をよく歌っている。自然を守るという意識を潜在的に持ってもらおう方法の一つだと思う。

- 昭和 29 年に西里地区が河北町に合併した際、西里財産区も入れないと合併してもらえなかった。先人が頑張ってきた財産区とその歴史を子どもたちに伝えていきたい。
- ゼロカーボン推進に向けて、再生可能エネルギーとして新電力との関係は考えなかったのか？
- 中島地区にひどい空き家がある。区長自らが除草しながら 3 年間かけて知り合いの NPO 団体に相談した。約 300 万円かけて解体したところ。こういった取り組みへの支援をしてほしい。
- 除雪補助に関しては支援を拡大してほしい。間口除雪は地区にとって大きな問題になっている。空き家を大工の力でリフォームするまではいかなくても町が一定程度指定してほしい。
- 毎年 9、10 月あたりに町から空き家点検の調査依頼がくる。地区役員としても空き家利活用について話をしているところ。中島地区の空き家で多いのは施設に入ってしまった高齢者の家。雑草や除雪の管理について、区長が何度も電話でお願いしてやっと所有者が来てくれるといった状況である。今後施設入居者はますます増える。夏の草刈り、冬の除雪について何かしらの取り組みを行ってほしい。
- ふるさと納税の使い道として子育て支援に使ってほしいという意向が多いようだが実際どう使っているのか教えてほしい。
- 資料には「夢」「希望」といった言葉が並んでいるのに、町が発信する内容はマイナスなものばかりだった。駅がない、高校の生徒数減少などは仕方がないこと。課題があるのは分かるが、町長自らがポジティブなこと、夢を発信していくべきだと思う。マイナスなことばかり語っていては魅力発信ができなくて当然だと思う。
- 町長が先ほど「若者が町を出ていってもいい」というような発言をしたが、それは嘘だと思う。サケが海から川に戻ってくるように、若者が戻ってくる町にするという気概を見せなければだめだと思う。
- 最近の町を見ていると、河北町らしさや魅力を感じない。一昨年 JC がキャンペーンをしたのはとてもいいと思った。土日に動物園・クラッカー周辺を歩行者天国にして自由に店を出してもらえば人が集まってくれると思う。ハードだけでなくソフトの取り組みが必要だと思う。
- なにより一番大事なのはプラスの発信をしていくこと。夢を語ること。マイナスなことばかり発信するのはダメ。
- 次男が谷地高に通った。谷地高は良い大学に推薦してもらえるのがとても良かった。このことは町報で PR するとよいと思う。
- 谷地高に在学中は和田酒造とのコラボをはじめ地域密着型なのに、河北町を出て行ってから帰ってくる居場所がないと思う。特に谷地高は女子生徒が多い学校であるのだから女の子が返ってきやすい場所を作るべきだと思う。

- 空き家に関しては、だれが管理するのかわかりさせるべきだと思う。公園や公共施設の近くの空き家に関しては町がしっかり管理・指導してほしい。
- 学童に関しては現在中部小と西里小が一緒になっている。中部小と西里小に分けてほしい。
- 西川町では水沢→谷地高や左沢、寒河江などを通る高校生専用バスがある。河北町に今更駅をつくるのは難しいと思うので高校生専用バスをつくってはどうか。駅がつかれないならせめて親の送り迎えにかかる負担を減らしてほしい。
- 屋内で遊べる場所が少ない。山形市にある施設やタントクルセンターまでは求めている。少なくとも絨毯敷で、小さい子が安心して遊べる広い屋内施設を作してほしい。
- ひとり親支援において、月額 3,000 円は安すぎではないか。

【町側の回答等】

【保育施設について】

- かつては祖父母の支えのもとに共働きでも子育てをできていたが、今はそうではない。祖父母世代との別居も増え、地域で子育てするという意識も薄らいできている。このような状況において、0歳児や1歳児を預けられる施設の存在は大事だと考えている。兄弟同じ施設に入れられて、後から転園などないようにしていきたい。現在ひかり幼稚園のみ0歳児から預けられるようになっているが、こども園でも検討しているところである。

【ゴミ袋について】

- ゴミ袋に必ず名前を記載しなければならないわけではない。クリンピアからは地区ごとで誰のゴミなのか区別できればよいとの回答をもらっている。地区によっては数字で区別しているところもあると聞いている。名前記載の目的としてはゴミが置いて行かれた時に誰のものか分かるようにするため。袋が透明なのは年に何回かゴミ収集車が発火することがあるので、中に危険物が入っていないか確認するためである。

【空き家について】

- 西里小近くにある空き家について、強風が吹いた際など自分も心配していた。町としてもギアチェンジして対策をすすめている。まずは危険空き家の除去を優先しつつ利活用法も検討しているところである。利活用に関しては不動産業者や建設会社等と連携して検討していく。
- 人口減少や生活様式の変化によって管理されていない空き家が全国的に増えてきている。町でも法律や条例に基づき助言や指導を行っているところである。だが所有

者の所有権はとても重いものであり、町でも無理やり取り壊すなどといったことは基本できない。「行政代執行」というものもあるが、あくまで最後の手段だと理解してほしい。白山堂の空き家に関しても、「周囲に危険の及ばないように」という内容で指導を行っているところ。場合によっては代執行もあり得るが、まずは動向を見守りつつ、早い問題解消に努めていきたい。

- 空き家の草刈りや除雪を地域でやってくださっているのは本当にありがたい。そうした地域での取り組みにどう関わっていくか検討させていただきたい。ただ、空き家の管理に関しては地区ごとに色々な考えがあり、関心の高さにもばらつきがある。町で大々的に施策を打ち出すと引け目を感じる地区が出てきてしまうので、地区ごとの需要に合わせた施策を考えていきたい。

【保育料について】

- 町としても子育て関連でどこに優先的にお金を使うかは悩みどころである。2人目以降の保育料完全無償化については今後検討していきたい。

【ゼロカーボン・新電力について】

- 現在環境基本計画を策定中であり、ゼロカーボンやごみ問題についても盛り込んでいる。今後も検討していく。
- 電力に関してはコストを比較しつつ決めている。役場新庁舎は地下水を活用したハーフカーボンだったが、東北電力の水力発電由来の電力プランを契約したことでゼロカーボンになった。今後はゼロカーボンを公共施設でも実現できるよう検討していく。

【西里財産区について】

- 環境に関する副読本を小学3年生以上に配布しているところである。財産区について今までの副読本には記載していなかったが、来年の改定で財産区のスギ材が役場新庁舎に使われた旨を記載する予定である。また、西里小の児童が役場にきた際には実際に使われている場所を紹介しているところである。

【ふるさと納税について】

- ふるさと納税の税込13億円のうち、半分は返礼品に消えてしまう。残りの4割程度が町が自由に使えるお金である。具体的には給食費の無償化、医療費無償化、子供が学校で使うタブレット、保育園の無償化など子育て関係に多く利用させてもらっているところである。

【夢を語ってほしい件について】

- 夢を語るだけでなく、それを実現する、行動を起こしていくことが大事だと考えている。河北町らしさや河北町の良いところに光をあてて地域づくりを行うことが子供の夢や自信につながっていくと思う。町にはそうした取り組みに対する支援制度も用意しているのでそれも活用してもらいつつ、活動できる場を用意できるよう取り組んでいく。

【学童について】

- 学童は民間が運営しているので町だけでどうにかできる問題ではない。子供たちの放課後の居場所をどう提供するか、教育委員会や子育て担当課、民間と連携して検討していく。

【地域公共交通について】

- バスについては本数を増やしても乗る人がいないので結局本数が減るという悪循環がある。通学の足としてのバスについてもこのようにならないよう実際に使ってもらえる、予算を無駄にしない施策を考えていきたい。

【ひとり親家庭支援について】

- ひとり親家庭支援のベースは国が行っている。町としては国からの支援に加算しているというスタンスである。県内の中でもこの取り組みは珍しいものである。

7月19日 溝延地区

【意見・質問等】

- 町としては子育てに力を入れているようだが、人口が減少していることは子育て以前の問題なのではないか。東根市と河北町は同じようなロケーションにあるにもかかわらず、東根市は人口が増え河北町は人口が減っているという事実がある。東根市は以前地味な印象があったが、近年は人口が増え、マスコミにも注目されているような状況である。こうした人口が増えている自治体との政策の違いは把握しているのか。
- まちの予算書を見ていても何に力を入れたいのか見えてこない。人口減に対する施策として、何か目玉的なものはないのか。
- 人口を増やしていくにあたって、若い世代、働く世代をどう定着させていくかが課題だと思うが、自分は民間の活性化が必要だと思う。コストコやイオンモールなど集客力の高い大型商業施設を誘致できれば人は自然に集まるし、雇用創出にもつながり、人が定着していく。イオンまではいなくても、道の駅で山形牛のメニュー

を安く提供するなど人が集まる取り組みをしてほしい。「人口減少を抑える」ことを目標にするのではなく、「人口を増やす」ことを目標にすべきだと思う。

- 小学校の在り方についての集会があるときいたが、その会の周知方法についてお尋ねしたい。
- 町の職員の中で、町外に住んでいる人はいるか。いるならその割合はどのくらいか。職員を採用するにあたって町内在住・町外在住は関係あるのか。
- 町長の説明で「まちの医療は充実している」との発言があったがどうしてそう言えるのか。
- 自分の地区には未婚者が多くいる。町主催の婚活イベントで成立したカップルはどのくらいいるのか。
- 語る会について、子育て世代に来てもらうには周知の仕方に問題があるのではないかと思う。
- 5歳男児の親で、河北町にUターンしてきて13年になる。
- どこも同じような施策の中、イオンなど大型商業施設があるところは人口が増えるというのは当然。そういう意味では「民間の活性化」というのはその通りだと思う。ただ、溝延地区を例に考えたとき、お店もバスもコンビニもないけれど、車さえあれば静かで素敵なまちである。河北町としては、山形や東根など賑わいのある地域からアクセスのよい、静かなベッドタウンであるところをアピールしたらよいのではないか。
- 溝延地区には空き家がたくさんある。空き家が解体されて更地になった後でも、雑草が大量に生えてきて対応に苦慮している。まちとして空き家や土地の利活用をどう考えているのか教えてほしい。
- 医療について、河北町には土日や夜間に行ける医療機関がない。結局山形に行かなければならないこともある。そこについてはどう考えているのか。
- 子供に障がいがあり、町外の小学校に通わせることになるかもしれない。「学校給食費の完全無償化」とあるが、町外の学校に通う子供にも適用されるのか。
- 以前、こども園を立ち上げる際の委員会に参加した際、0歳児、1歳児保育の話になった。皆が我先にと申し込むので本当に必要な人が入れないという状況だった。今町長の話聞いて0歳児・1歳児保育の問題がまだ解決してないのかと驚いた。早く問題解決に取り組んでほしい。
- まちづくりにおいて、母親が安心して子育てできる環境をいかにつくれるかが重要だと考えている。かほくらし社で雇うパートの面接をした際、子供が4人いて辞職と再就職を繰り返してきた女性が来た。その女性の志望動機の一つは「かほくらし社は子供が熱を出したら子供のところに行ってよいと聞いたから」というものだった。大型商業施設を誘致するのもよいが、そうした施設には車があればすぐに行け

る。母親が安心して子育てできるまちにしていくべきだし、それが実現すれば自然と人も集まってくると思う。

- 溝延地区は宅地が少ないように感じる。学校の近くに宅地を整備すれば移り住んでくる人も増えるのではないか。

【町側の回答等】

【人口が増加している近隣市との政策の違いについて】

- 近隣市と比較して、人口の増減に影響するような決定的な政策の違いは無いと認識している。ではなぜ河北町の人口が減っているかという点、出生数に対して死亡数が多いことによる自然減、Uターンが少ないという社会動態が挙げられる。他にも「学童保育が充実していない」との声や「地域公共交通が発達しておらず、子供の送り迎えにおける保護者の負担が大きい」との声もよく聞く。こうした子育てにおける懸念から選んでもらえないということも考えられる。何をやれば人口が増えるということはないだろうが、住まい・仕事・暮らしの面から子育てしやすい、暮らしやすいまちにしていきたい。

【小学校のあり方検討委員会の周知方法について】

- 周知の方法についてはこちらも悩んでいるところ。昨年は6学区85名の方に来ていただいた。周知はホームページ、広報かほく、子供を持つ親に来てもらうべく幼稚園、小学校、中学校にも行っている。直近では8月26日に開催予定であり、子供を持つ親が来やすいように、どんがホールで開催して子供を預けられるように準備している。

【町外在住職員の割合・採用について】

- 採用においては、人材確保という観点から町内・町外関係なく募集している。ただ、町職員である以上、できるだけ町内に住むよう要請はしている。

【町の医療について】

- 河北町の医療が充実しているとの声はよく聞くし、アンケートにも書かれている。河北病院だけでなく町医者も充実していて、人口あたりの医者の数は多いほうなのではないかと認識している。こうした点からまちの医療は充実していると発言した。

【婚活イベントについて】

- 結婚支援事業については社会福祉協議会に委託しているところ。偶数月の第4日曜日に開催しているイベントについては利用者がいない状況である。毎月第1、2、3

火曜日に開いている結婚相談所に関しては利用者はいるが成婚には結びついていないと聞いている。サハトで開催したマッチングカフェでは男女各8名が参加し、4組のカップルが成立したようである。

【語る会の開催方法について】

- 中部小での語る会において「こうした会を開くのであれば子供を預けられるようにしてほしい」と言われた。これを受けて、すぐに子供を預けられるよう準備しLINEでその旨を周知したところであった。また、西部小においても開催日時は平日の夜がいいのか、休日の日中がいいのかといった議論、人を集めようとするのではなく人が集まる場所に行くべきだとの意見もあった。できるだけ多くの声を聴くため工夫していく必要があると思っている。

【給食費無償化について】

- 町内に住んでいて町外の学校に通っている子供なら、まずはご自身で負担していただいて、負担していただいた分を町が後払いするという形になる。

【休日・夜間診療について】

- 休日診療に関しては当番制でやってもらっているところ。
- 現状、河北病院に小児科、循環器系の常勤医師がいない。まちとしても救急医療、夜間診療に関して受け皿が足りていないと認識している。連携して医師の確保に努めていく。

【空き家について】

- 今年度から新しく空き家対策の組織をつくり、職員、予算も増やして対応しているところ。利活用も重要だが、まずは所有者主体での危険空き家の除去に努めている。
(担当：防災・危機管理課・まちづくり推進課)
- 風や雪の度に空き家の心配をしていたところ。まずは危険空き家の除去に努める。更地については所有者の方とも話し合いを行ったうえで、冬の雪置き場にするなど活用方法について検討していく必要がある。不動産会社や司法書士、建設会社等と連携して活用方法を考えていく。

【0歳児保育について】

- ひかり幼稚園では8か月から入れるようにしている。ちびっこ園、チャイルドホーム第1、第2でも生後2か月、3か月くらいから入れるようになっている。他認可施設や届け出施設としてちびっこホームやべにばなベビーホームでも0歳児からの預かりを行っている。

○子育て世代のニーズに応え、入園してもらえるような工夫をしていきたい。兄弟一緒に入れるようにという声に応えられる環境にしていきたい。